

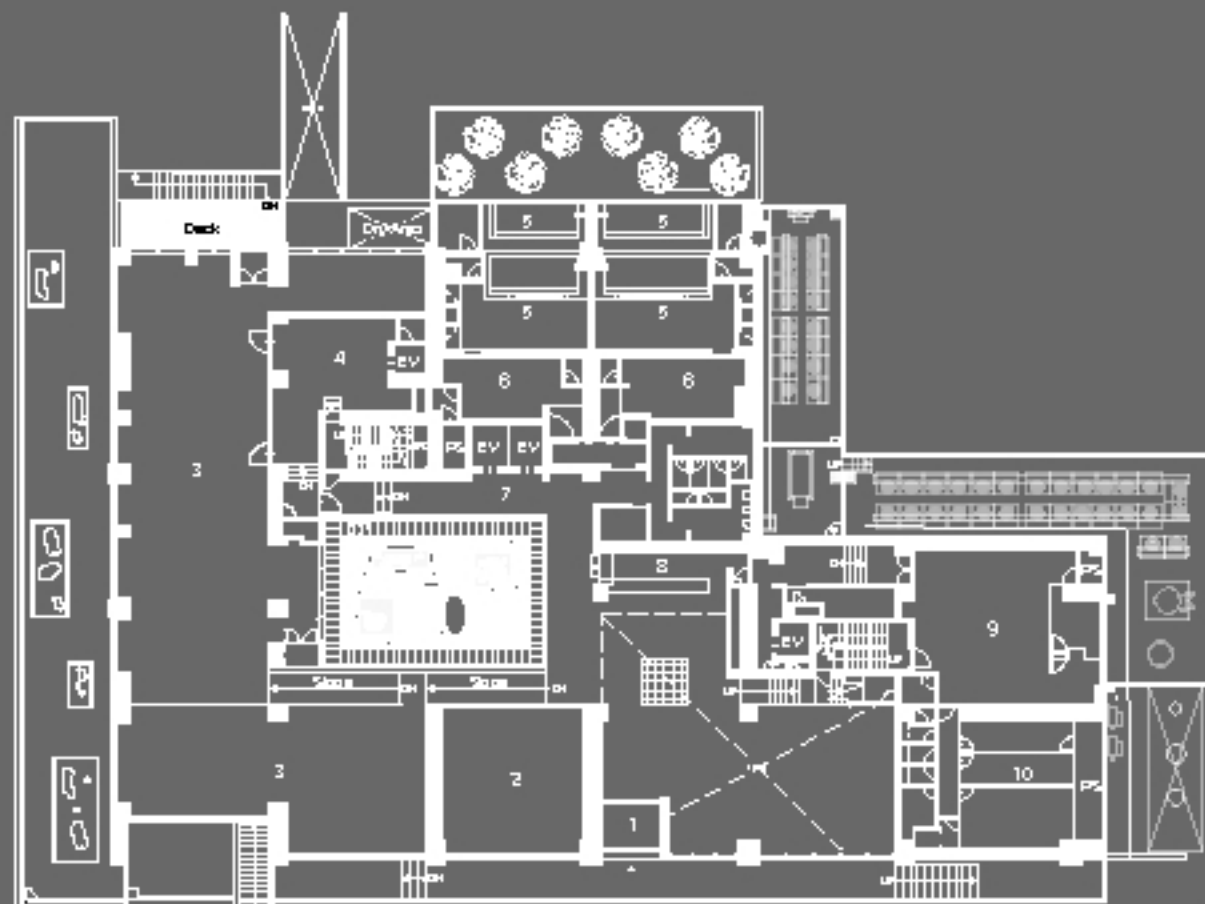
ニセコの中心的存在であるグラン・ヒラフスキー場に隣接し、そこに至るひらふ坂のメイン通りに面した羊蹄山を望める敷地に建つホテルの計画である。また、敷地は国定公園内に位置し自然公園法が課せられる。香港在住のクライアントから要望として上がったのは、「風水を中心に考えた、日本的なデザイン」であった。

前面のひらふ坂の道路勾配に合わせてB1F,1F,2Fの高さ関係を検討し、一部スキップフロアとして地形に沿った建物となるように計画することで工事費や工期短縮に配慮した。建物構成は、地下1階は主に駐車場と機械室、スキーロッカールームやスキーショップ、1階はメインロビーや温泉、テナントによるショップやレストランが配置される。2階は客室3室にジムとサロンを配し、3～5階は各階16室の客室が配置され、6階にはペントハウスとして2つの高級な客室を確保した。

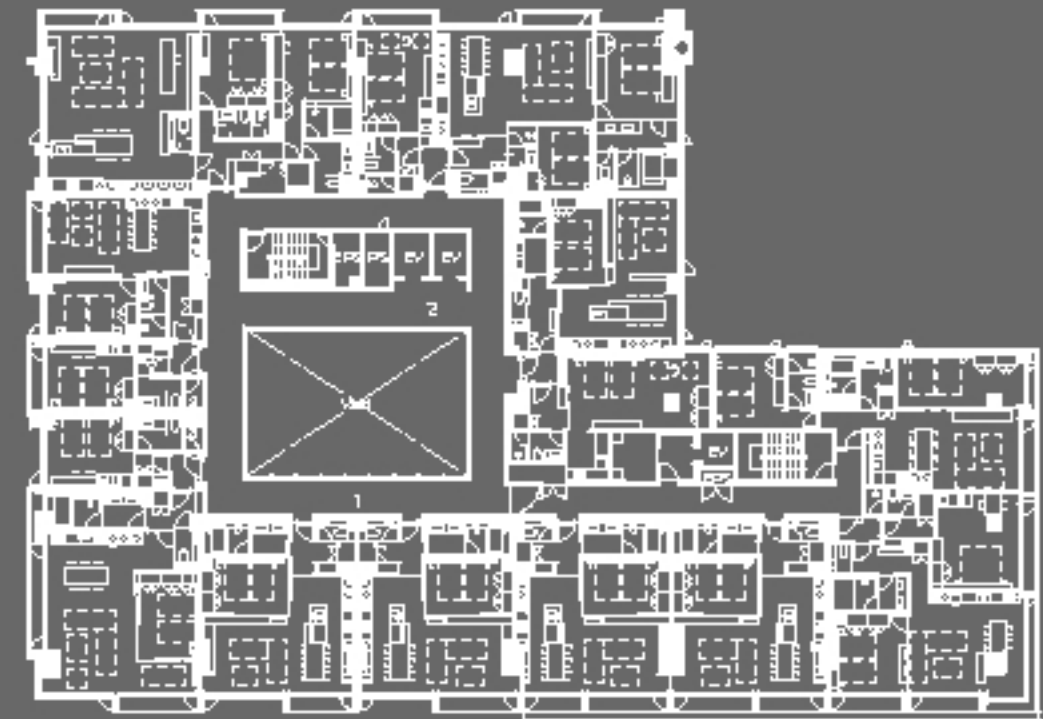
客室は合計53室で、部屋毎に間取りや仕上げが異なる客室のデザインを模索した。そのような多様性を生み出すことで、リピーター確保にも繋がるのではないかと考えている。また客室はLDKを主として、仕上げはグレーやブラウンといった落ち着いた色のある色を基調とし、高級感と静謐さを醸し出している。外部はガラスの手摺で出来たバルコニーを客室ごとにランダムに配置し、リズム感のある立面とすることで、画一的ではない奥行きのある表情を生み出した。建物中心には1つの大きな5層吹き抜の中庭を設け、各階の共用廊下に自然光を導く計画とし、共用廊下と客室間の移動中も楽しめるようにした。

このホテルではできる限り既製品を用いずに、家具や照明なども製作とすることで、唯一無二のホテルを目指した。ロビーの床材や、受付カウンターの石材は、ポルトガルから輸入したものであり、時間の経過と共に錆びる石材で、日本のかつ趣ある雰囲気の特徴的な素材である。このように建物構成やデザインのあり方、仕上げや素材の隅々まで意識を行き渡らせることで、より高次元な建築へと昇華させることが出来た。





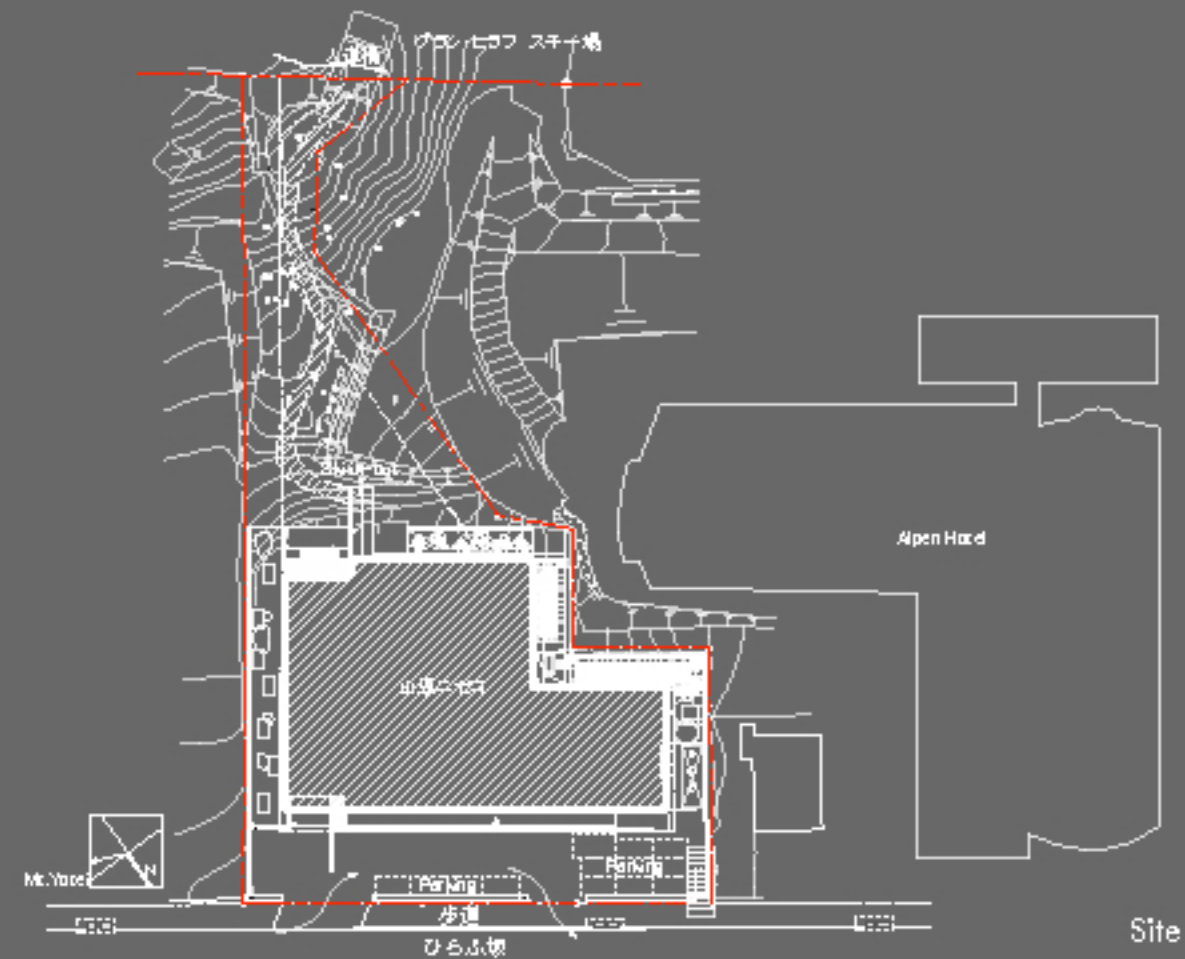
1. エントランス  
6. 脱衣室
2. カフェ  
7. エレベーターホール
3. お客専用/レストラン  
8. Reception
4. 厨房  
9. 事務所
5. 温泉  
10. クローク
- 1F



1. 地下
2. エレベーターホール
- 3~5F



北側立面図



Site